【主題】社会に開かれた教育課程の実現に向けて

【副題】ESD（持続可能な開発のための教育）の授業づくり

【学校・団体名】奈良県奈良市立東登美ヶ丘小学校
【役職名・氏名】校長　西口　美佐子

１　研究主題の設定の理由

平成２９年に学習指導要領が改訂され、初めて設けられた前文の中に「社会に開かれた教育課程」という文言が盛り込まれた。よりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくことが示されている。

一方、社会では、国際目標であるSDGｓ（持続可能な開発目標）の達成が求められている。

そこで、本校は、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、令和４年度から ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んだ。ESD の学びを展開する中で、社会のリソースをうまく学習過程に組み込んだり、持続可能な社会を意識した授業づくりを行ったりして、社会との連携及び協働を図り、持続可能な社会を創る児童の育成を目指すことにした。このことが、学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現につながると考えた。

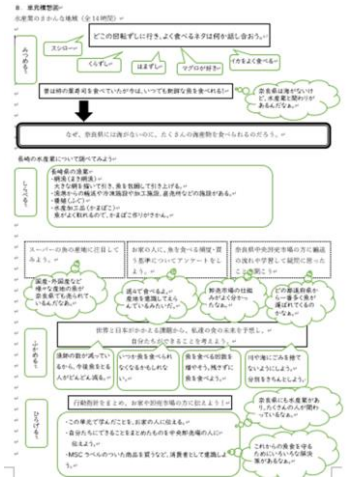
２　具体的な取り組み①　―ESD の研修―

まず、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けてＥＳＤの授業づくりを行うために、奈良教育大学の ESD ティーチャープログラムに学校として参加し、全５回の研修を受講した。

・第１回　ESD の学習理論
　　奈良教育大学　中澤 静男 先生
　　大西 浩明 先生
・第２回　持続可能な開発目標 SDGs が目指す世界と ESDfor2030
　　奈良教育大学　及川幸彦 先生
・第３回　優良実践報告
　　奈良女子高等学校　新宮 済 先生
・第４回　単元構想案の検討
・第５回　指導案検討

第１回、２回では、理論的な研修を行い、第３回で優良実践を聞いて具体的な授業のイメージを掴んだ。

その後、単元の流れが一目でわかる単元構想案を作成し、第４回では、各学年等が単元構想案を持ち寄り４グループに分かれて検討を行った。この時に、どんな組織と関わるか、どんなゲストティーチャー（以下 GT）がいればよいか、いつ招くかなど、社会のリソースをどのように学習に取り込んでいくのかを考えた。



【単元構想案】

第５回では、単元構想案をもとに作成した指導案を４グループに分かれて検討した。指導案では、ESD の視点、育てたい ESD の資質・能力、変容を促す ESD の価値観、達成が期待される SDGs を示し、持続可能な社会の担い手づくりを意識した授業を計画した。

■持続可能な社会づくりの構成概念（ESD の視点）
1. 多様性（いろいろある）
2. 相互性（関わりあっている）
3. 有限性（限りがある）
4. 公平性（一人一人大切に）
5. 連携性（力合わせて）
6. 責任制（責任を持って）

■ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度（育てたい ESD の資質・能力）
1. 批判的に考える力
2. 未来像を予測して計画を立てる力
3. 多面的・総合的に考える力
4. コミュニケーションを行う力
5. 他者と協力する力
6. つながりを尊重する態度
7. 進んで参加する態度

【国立教育政策研究所「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕より】

第４回、５回にも奈良教育大学の先生や他校の ESD 実践が豊富な教員の協力があり、多くのアドバイスをいただき、充実した計画になった。

３　具体的な取り組み②　―ESD の授業実践―

各学年、専科、ひまわり（特別支援学級）で考えた授業を２学期中心に実践した。ここでは、その内容と育てたい ESD の資質･能力について重点的に紹介する。

○１年　「ひろがれ　えがお」（生活）

１年生は、家族や家庭の良さについて気付く学習に取り組んだ。家族も小さな社会の組織である。ESD の資質･能力として､｢未来像を予測して計画を立てる力」「コミュニケーションを行う力」「進んで参加する態度」の育成を目指した。

【GT の保護者の話】

家庭で聞き取りをするだけでなく、実際に保護者に GT として来校いただき､｢仕事｣の仕方について教わった。子どもたちは、自分が決めた仕事に意欲的に取り組むことで家族の一員としての役割も意識することができ、家族からも褒められ、大変良い学びになった。

○２年　「せかいでひとつ　わたしのおもちゃ」（生活）

２年生は、身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりして、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする学習に取り組んだ。ESD の資質・能力として、「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する力」の育成を目指した。

一人一人が廃材などを利用して創意工夫しておもちゃを作成した。それを他の人にも楽しんでもらいたいという思いを持ち、１年生やお世話になった６年生を招いておもちゃランドを開いた。遊び方について、異学年に堂々と説明する子どもたちの姿が見られた。

【おもちゃランドの様子】

○３年　「どんなバトンを未来へつなげていきますか？」（社・総）

３年生は、学校の歴史を知り、様々な人たちが「東登美ヶ丘小学校をよりよい小学校にしたい。」と願って歴史を支えてきた思いに気付き、学校の一員として自分たちができることを考える学習に取り組んだ。ESD の資質・能力として、「つながりを尊重する態度」「進んで参加する態度」の育成を目指した。

【GT の元教員の話】

毎年、本校の元教員から設立当初の話を聞いていたが、それに加えて校長や業務員、地域教育協議会や少年指導協議会の会長、図書ボランティアの方など様々な GT から話を聞き、学校が多くの人たちの手で支えられていることに気付くことができた。終盤には、自分たちが受け継いでいきたいことをグループごとにまとめ、参観日に保護者の前で生き生きと発表した。

○４年　「奈良県の伝統工芸品を未来へつなげよう」（社・総）

４年生は、奈良県の長く続く伝統工芸の職人の方々と関わる活動を通して、奈良県で受け継がれてきた伝統文化の良さに気づき、文化や技術の継承を願って自分にできることを考え、進んで地域社会に関わっていこうとする態度を育てようとした。ESD の資質・能力として、「批判的に考える力」の育成を目指した。

奈良県の伝統工芸である「奈良墨」「奈良筆」「奈良うちわ」「茶筅」「赤膚焼き」の職人を GT として招いて話を聞いた。また、「奈良墨」の職人の方と共に奈良県の伝統工芸品を広くみんなに伝えるための活動を考えた。ワークショップを開いたり、パンフレットを作成したり、新商品の開発を行ったりした。ワークショップは、平城宮跡の天平うまし館で行い、保護者だけでなく、一般の方の参加もあった。この様子は、NHK 奈良放送局で取材され、放送された。

【ワークショップの様子】

○５年　「海なし県・奈良から海について考えよう」―海の豊かさを守る東登美っ子の活動―（社会）

５年生は、日本の水産業が抱える課題を自分事として捉え、水産業を成り立たせ、海の豊さを守るために自分たちができる消費行動を考えるという社会科学習に取り組んだ。ESD の資質・能力として、「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「進んで参加する態度」の育成を目指した。

海のない奈良県で、子どもたちに水産業を身近に感じさせるため、回転寿司のねたを導入にし、本物の魚も用意して、子どもたちの関心を高めた。また、中央

卸売市場の方をGTとして招き、海のない奈良県にどのようにして魚が運ばれてくるかについてお話しいただいた。その後、これからの水産業について、自分たちができることについて考え、「魚を食べる機会を増やす。」「国産の魚を買う。」「海を汚さない。」などに気付き、他学年にも伝えた。

【研究授業の様子】

○６年　「未来志向的平和学習」
―#平和を見つめよう―（総合）

６年生は、平和の維持について自分たちに何ができるかという課題を持って、調べ学習や協同学習を通して、身のまわりの平和について見つめ、自分たちの考えをまとめようとした。ESDの資質・能力として、「批判的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「つながりを尊重する態度」の育成を目指した。

「平和って何だろう。」という問いかけから始め、「世界は平和か。」「日本は平和か。」について考えた。学習の中で、帝塚山大学の末吉洋文先生とその学生にも協力いただいたり、修学旅行で加西市に行き、鶉野飛行場などの戦争遺跡についてボランティアガイドから話を聞いたりして、平和への理解を深めた。

【大学生が参加した授業】

最後には、学んだことをスライドにまとめて、姫路市立白鷺小学校の６年生にオンラインで伝えた。

○専科　「夏を涼しく快適に」（家庭）

家庭科の学習では、夏の住まい方や衣服の着方と手入れの仕方についての学習に取り組んだ。ESDの資質・能力として、「批判的に考える力」「コミュニケーションを行う力」の育成を目指した。

各自で調べ学習を行い、意見を共有し合った後、自分の生活に合わせて快適に過ごすために必要なことをまとめ、提案カードを作成した。それを校内に掲示し、全校に呼びかけた。

【提案カードの掲示物】

○ひまわり（特別支援学級）
「東登美５０周年　ひまわりガーデンにさつまいもを植えよう」（自立活動）

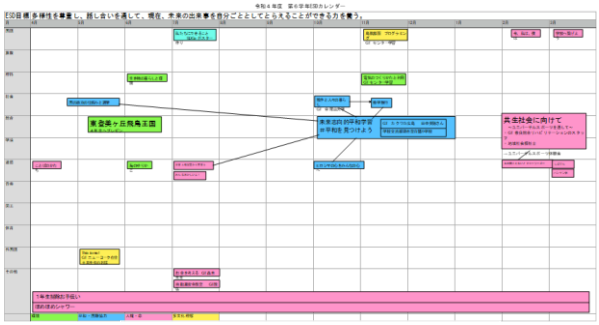
ひまわり学級では、サツマイモづくりを通して、土づくりの大切さや土には生き物が関係していること、大量に出るサツマイモづるの活用方法など自分たちの生活が環境に深いかかわりがあることについて学習を行った。ESDの資質・能力として、「批判的に考える力」「コミュニケーションを行う力」の育成を目指した。

サツマイモを育てながらサツマイモについて調べ、リサイクルについて考えた。収穫したあと、つるを活用してリースを作り、作品展に出品した。他にもリサイクルできるものがあることに気付き、牛乳パックや広告用紙を使ってものづくりをした。

【つるで作ったリース】

４　具体的な取り組み③　―ESDカレンダーの作成―

年度末には、各学年等で行った実践をもとに、各教科との関係を考え、ESDカレンダーを作成した。



【作成したESDカレンダー】

環境（緑）、平和（青）、人権（ピンク）、多文化理解（黄）と色分けし、ESDの取組を各教科と関連付けてまとめた。

令和４年度から作成を始めたばかりなので、今後も学年の子どもたちや教員のよさを生かしながら、毎年加筆修正を加え、発展させていきたい。

５　研究の結果

○教職員の感想から

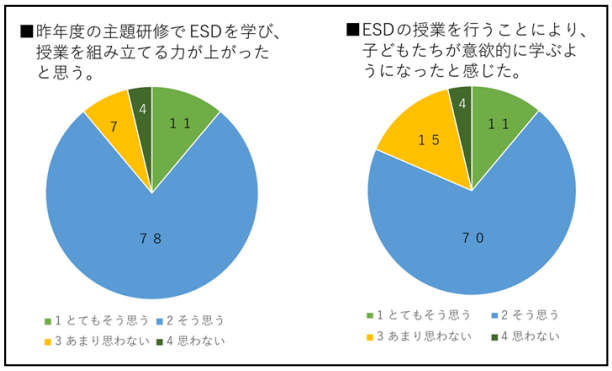
一連の取組を行う中で、教職員は多くのことに気付いた。以下はその一部である。

・ESDについては、小学生のうちから、学ばせていくことの大切さや、日常生活や普段の授業の中で学んでいることだと、研修で気付かされた。

・見近な教材の見つけ方、GT の適切な利用の仕方が勉強になった。今まで、GT は、子どもたちの学びを単発的に補充したり発展させたりするための役割と考えていたが、実践を聞いて、GT をサポーターとして一緒に学び合う役割が適切だということがよくわかった。
・伝統工芸のことについて、さまざまな視点を持つ必要があることや、専門家と子どもたちをつなげるタイミングなど、より効果的にゲストを迎えることや、流れ、組み立て、発問など、改めて細かく考えることの大切さを学んだ。
・学校以外と連携・協力し、つながる方法を知り、実践することができた。
・授業のデザイン力が向上したように思える。
・深く考えたので子どもたちの反応が良かった。
・ESD との関連を意識して進めていくのが難しかった。
・「広げる」活動をする必要性をどのように与えるかを試行錯誤していきたい。

○教職員のアンケートから

今年度になって、改めて教職員に ESD に関してアンケートを取ったところ、以下の通りになった。



【教職員へのアンケート】

「昨年度の主題研修で ESD を学び、授業を組み立てる力が上がったと思う」教職員は、「とてもそう思う」「そう思う」を含めて約９割、「ESD の授業を行うことにより、子どもたちが意欲的に学ぶようになったと感じた」教職員は８割にのぼった。

この ESD の授業づくりを通して、教職員は、社会のリソースを有効に使うことの意義や価値を見出したと感じている。うまく活用することで、子どもたちの学びを深めると共に、学校での学びが社会につながっていくことを実感させることができた。それが、子どもの意欲につながっていった。その姿を見て教職員も手ごたえを感じ、授業づくりへの意欲が高まったと感じている。

○令和５年度の学力学習状況調査から

６年生については、今年度の学力学習状況調査において、以下のような結果になった。

令和5年度　学力学習状況調査から（数字は肯定的回答の%）

	項　目	R5	R4
1	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	78.7	70.1
		<74.8>	<72.7>
2	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	89.8	83.5
		<81.8>	<80.1>
3	学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	88.9	80.4
		<77.4>	<78.2>
	< >は全国平均		

上記の表の１については、肯定的回答が昨年度と比較して、８．６ポイント高くなっている。全国平均と比較すると、昨年度は２．６ポイント低かったが、今年度は３．９ポイント高くなっている。５年生の時に ESD の学習として取り組んだのは社会科であったが、学びの形態の影響が総合的な学習の時間にまで及んでいたと考えられる。

また、２については、昨年度と比べて６．３ポイント高くなり、ほぼ９割の児童が話し合う活動を通じて自分の考えを深めることができたと回答している。

さらに、３についても、昨年度と比較して、８．５ポイント高くなっており、全国平均と比較すると１１．５ポイントも高くなっている。こちらも９割近い児童が肯定的回答をしている。

これらの子どもたちの大きな変化は、ESD の授業づくりに取り組んだ成果だと考えている。

６　まとめ

教職員たちは　ESD の授業づくりを行うことで、ESD の視点、育てたい ESD の資質・能力、変容を促す ESD の価値観と達成が期待される SDGs を考え、持続可能な社会を創る児童を育成するための授業はどのようなものかを知ることができた。併せて、社会との連携及び協働を図りながら授業を創造することが重要であることに気付き、GT を招いたり、異学年や保護者、学校外の人たちに発信したりする活動を積極的に取り入れることができた。

今回の取組を経て、本校の教職員は「社会に開かれた教育課程」の授業デザイン力の基礎を身に付けたと考えている。今後も、ESD の授業づくりを進め、その力を高め、質の高い「社会に開かれた教育課程」の実現を学校全体で目指していきたい。